

特別な支援が必要な児童生徒への休業中の支援

1 予想される特別な支援を必要とする児童生徒の現状

<心理面、行動面>

- ・将来に見通しがもてない、いつ日常が戻るか分からない
- ・目に見えないウイルスへの不安
- ・関連する情報が多い、特にネガティブな情報が多い
- ・具体的な行動が分からない(「規則正しい生活を」?)
- ・年度末と年度初めという節目を経験していない
- ・周囲の環境の変化(地域、家庭)
- ・いつもの過ごし方ができない
- ・身近な人の不安な様子(会話、表情、行動)
- ・感情をうまく言葉で表現できない
- ・マスクの着用を求められる(触覚、臭い、相手の口元が見えない)
- ・ずっと室内にいる、動き回れない
- ・家族との関わりの変化



<学習面>

- ・実体験、実技ができない
- ・やりとりができない
- ・モデルや見本がない
- ・いつもと違う道具を使っての学習
- ・注意力や集中力を持続することが難しい



<その他>

- ・視覚、聴覚からの情報制限
- ・姿勢の保持の疲労
- ・薬の管理、通院

反面

- ・一人で快適である
- ・自分の新しい過ごし方が見付けられる
- ・他の家族と関わる機会が増加する
- ・地域とのつながり、関係機関の利用が増える

2 どのような支援が必要か

現状について正しく理解できるように支援する

- ・新型コロナウイルスと現在の状況を具体的な言葉で説明する。
- ・子供が調べた情報(家族と一緒に調べた情報)について話し合う機会を設定する。
- ・信頼できる情報の入手先を考える機会を設定する。

(例)新型コロナウイルスに関するワークシート

新型コロナウイルス感染症

- ・病気のことです。
- ・コロナウイルスは、とても小さく、鼻や口、目から体の中に入ると病気になります。どうやってコロナウイルスは、体の中にはいるのですか。

- ・新型コロナウイルス感染症という病気になると、どうなるか知っていますか。

- ・新型コロナウイルス感染症が体の中に入らないように気を付ければ大丈夫です。鼻や口、目から入らないようにするためにどんなことができますか。



(例)言葉調べワークシート

このようなポスターを見たことがありますか。この中の言葉について調べてみましょう。

「集団発生」

「避ける」

「換気」

(ヒント「換」は「交換」でも使われている。「気」の意味は?)



年齢にあった説明をしてください

- 小学校低学年：コロナウイルスについての事実とともに、学校や家庭は安全であることや、大人は子どもたちが健康を保つことや子どもたちが病気になったら世話をしてくれることなどをバランスよく適切に伝え、安心させるようにしましょう。短く簡潔な情報にすることが大切です。
- 小学校高学年から中学校：子どもたちはコロナウイルスが自分たちの学校や地域に及んだらどうなるか、自分たちは本当に安全なのかということについて、より直接的に質問をしてきます。子どもたちがうわさや想像と現実を分けることには、大人の援助が必要です。学校や地域でリーダーがウイルスの拡散を防ぐために行っている努力について、話し合しましょう。
- 中学校から高校：子どもたちはこの問題についてより深く(大人のように)話し合うことができ、コロナウイルスの適切な情報源を直接に参照することができます。コロナウイルスに関する最新の状況について、正直で正確かつ事実に基づいた情報を提供してください。

子どもたちに話すときは次のことを強調してください

- 家庭や学校で大人はあなた(子ども)たちの健康と安全を守っています。もしもあなたが心配になったら、あなたが信頼している大人に話をしてください。
- 誰もがコロナウイルスに感染するわけではありません。学校や健康に関わる公的機関は、できるだけ病気になる人が少なくなるように、細心の注意を払っています。
- 全ての児童生徒がお互いを大切にし、誰もがコロナウイルスに感染しているかいないかといった早計な結論に至らないようにすることが大切です。
- あなたが健康を保ち病気が拡散しないようにするためにできることは次の通りです。
 - ・ 不必要な人混みへの外出を避ける。
 - ・ 自分の体調が悪い場合は家にいる。
 - ・ 咳やくしゃみをするときは自分の肘やティッシュペーパーで口元を隠し、使ったティッシュペーパーはゴミ箱に捨てる。
 - ・ 混み合った場所に行くときは、自分と他人を感染から守るために、マスクをする。
 - ・ 目・鼻・口を触らないようにする(訳注:粘膜から感染しやすいとされています)。
 - ・ 石けんで頻繁によく手を洗う(20秒)。
 - ・ 石けんがなければ、手の消毒液を使う(濃度範囲 60-95%アルコール)。
 - ・ 一般の家庭用清掃液やスプレーで、物やその表面を頻繁に消毒する。

正しい情報を

安心できるように

子供が知っている言葉で

具体的に

図や写真を使って

得た情報から具体的な行動を視覚的に提示する

- ・5W1Hが分かるように説明する。
- ・画像や動画を提示する。



子供のルーティンを維持しながら、新しいルーティンをつくるようにする①

- ・毎日のスケジュールを確認したり、一週間の予定を提示したりする。
- ・変更があることも事前に伝える。
- ・新しい学校生活について視覚化して提示する。
- ・新型コロナウイルス感染症予防のための行動をルーティンとして取り入れることを話し合う。(ルールブック等の活用)

北九州教育委員会HP 家庭学習支援サイトより

お休みの日や行事(行事)の予定表

日	月	火	水	木	金	土	日
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

生活の記録カード (小学生用)

日	月	火	水	木	金	土	日
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

生活の記録カード (中学生用)

日	月	火	水	木	金	土	日
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

子供のルーティンを維持しながら、新しいルーティンをつくるようにする②

- ・新型コロナウイルス感染症予防のための行動をルーティンとして取り入れることを話し合う。(検温、手洗い、マスク着用 等)

(例) 手洗いの大切さを理解しているが、行動に結びつかない

手洗いのタイミングを決める。

- ① 外から室内に入るとき
- ② トイレのあと
- ③ 動物や虫を触った後
- ④ 飲食前
- ⑤ 食べ物を触る前
- ⑥ 咳やくしゃみをして手で押さえたあと

玄関先やトイレなどに絵カードを提示して意識づける。



(例) マスクを嫌がる

- ・臭いが嫌な場合は、布製のマスクを使用し、アロマなどで好きな香りをつける。
- ・好きな素材や立体的な形のマスクを使う。
- ・耳にゴムが当たらないように工夫する。

どうしても嫌がる場合は、人との距離を保ったり、手洗いをこまめにしたりする。
(例)「自分と話す相手が腕一本伸ばした分を開けましょう。」

子供のルーティンを維持しながら、新しいルーティンをつくるようにする③

- ・活動に応じたワークスペースをつくる。
- ・学校での教材等を使う。
- ・学習サイトやオンライン等を活用した学習を提案する。(様々な学びのチャンネルを確立)



学習するスペース

- ・必要ならば学校で使っているものを家庭に提供したり貸出したりする。



余暇を過ごすスペース

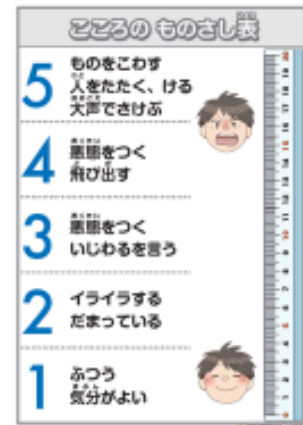
場所で区切れない場合は、活動ごとに使う道具等を箱に入れて、その箱を出し入れするなどの工夫をする。

やることリストの活用

時刻 (順番)	すること	できたよ シール

自分の気持ちを表現する機会をつくる

- ・気持ちを見える化できるものを使う。(感情カード等)
- ・子供のサインを見逃さない。
(かんしゃくを起こしやすい、こだわりが強くなってきた など)
- ・オープンな質問ではなく、YES・NOで答えることができる質問から始める。
(「どんな調子？」→「気分はいい？悪い？」など)
- ・身近な人との関わりの中で、できるだけ感情を表現できる機会を設定する。
(一緒にゲームをするなど)



子供に合った余暇活動やストレス発散法の提案する

- ・好きなことや得意なことをルールを決めてすることを伝える。
- ・人の少ない場所や時間帯に外に出てもよいことを伝える。
- ・室内でできる運動を提案してみる。(動画を見てストレッチやヨガ、ダンス、ラジオ体操等)

つながりを育む

- ・メールや電話、オンラインでメッセージを送ることを介して、家族以外の人との社会的な接触の機会をつくっていく。

行動の変化に気を付ける

- ・健康に対する恐れ、欲求不満、不安を言葉で表現できない場合があるため、これらを他の手段で表現する必要がある。家族や支援者は、不安やうつ兆候に注意する必要がある。

例) 睡眠または食事のパターンの変化、反復行動の増加、過度の心配や反すう、動揺や過敏さの増大→医療機関等の専門機関のサポート

障害ごとの特性に留意する

・「新型コロナウイルス感染症に対応した臨時休業中における障害のある児童生徒の家庭学習支援に関する留意事項について」(令和2年5月7日 文部科学省)参照

通級による指導を受けている児童生徒について、担任や通級指導教室担当者等が連携しながら支援していくことが大切である。

(例)

- ・過度に苦手な学習の繰り返しを要求することがないようにする。
- ・実態に応じて、学習内容を補うヒントカードや教材・教具等の提供する。
- ・基本的な生活習慣の確立のため、カードやルールブック、教材・教具等の提供や貸出をする。
- ・保護者からの肯定的な声かけや働きかけが行われるようにする。 など

家族や支援者自身が自分の心と体の健康を



3 学校再開のときに必要な支援

- ・スモールステップでの活動→できたときには即時評価、目に見える評価
- ・個別の空間をパーテーション等で設定
- ・人が増えたことで音がつらい場合はイヤーマフ等の装着
- ・手洗いや消毒が正しくできるように、見本カードや写真の掲示、歌を歌う、ご褒美シールの配布
- ・見通しがもてず不安が強い場合は、視覚的に見通しを伝えたり、意思表示がしやすいようにカードを用意したりする。(家庭と学校で共通のツールを使う)
- ・気持ちの意思表示が苦手な児童生徒の場合は、気持ちの可視化ツールを活用する。
- ・保護者と連携をとり、情報を共有する。

→ 個別の教育支援計画(学校と家庭での共通のツールの活用、地域・関係機関との連携)
個別の指導計画の活用(自立活動との関連)